



曹操&関羽“別れ”の場 灞陵公園

はりょうこうえん / バー・リン・ゴン・ユェン



4



6



7



8



9

- 4 灞陵橋のたもとに立つ関羽像は、これまでの許昌テイストから脱却した野心作。抽象的な芸術センスもあるんだ、というアピールを感じる。
- 5 公園入ってすぐの例の像。関羽の感謝の度合いがどんどん大きくなっているような気がする。
- 6 客人と語る曹操の前で遊ぶ魏の子供たち。
- 7 公園入口には売店が、『三国文化・許昌読本』という書籍は、三国文化を教育に取り入れた許昌市の某校教諭の著書。「劉備のほうが主流だけどそれはいろいろ不公平な話です」と書かれている。
- 8 「関帝廟」の正面。平日は静かでのんびり。
- 9 内部の灞陵橋レプリカもかなり精巧。

劉

備の元へ戻る関羽を、曹操が見送ったとされる灞陵橋（八星橋）は、現在は公園の一角にある。曹操の心の広さをアピールする絶好の場だが、あまりに丁寧な見送りだったため、逆に関羽から疑われたのは残念だ。しかし許昌にいと、なぜ「裏なぞないわ！」という気分になるのだろうか。市街地からバスで約10分。入るとすぐに例の「感謝する関羽と（以下略）」像がそびえたっているが、公園自体はおだやかで自然も多く、地元小学校の遠足スポットだ。この日も大量の小朋友（中国語で子ども）が押し寄せ、曹操像の前で元気よくピースサインを決めていた。「曹操様に親しむには早期からの教育が必要」という学校側の判断があるに違いない。

橋はすでに改装され、あまり風情はない。当時の橋は公園内の「関帝廟」で再現されており、こちらのほうが雰囲気はある。ちなみにこの廟の回廊では、なぜか「許昌原人」の骨の写真を常設展示中。さらにトドメの「感謝する（以下略）」像を前に「もうわかったよそれは……」とつぶやくのは非常に正しい。

サブリミナル効果のように繰り返しアピールされる例のシーン。実際の現場だけに人形にも気合いがみなぎっている。土産物をシカトしてとっと立ち去るクールなミスター忠義だが、右の曹操は冷たくされてちょっとうれしそうに見えてしまう。

ACCESS GUIDE

- ◆許昌市魏都区許継大道
- ◎08:00~18:30 (夏期) / 17:30 (冬期)
- 30元 市バス「灞陵公園」下車すぐ



1



2



3

- 1 「関帝廟」の関羽像といい、許昌は全体的に作りが高品質。
- 2 しかし蜀の有名人像まで設置するのはいかなものか。改めて言うが、ここは許昌である。
- 3 躍動感あふれるゴールデン関羽は歌舞伎調。個人的にはかなり好みのテイスト。

